

号外

新病院建設に赤信号

生駒市の新病院建設構想が暗礁に乗り上げた。公設民営での病院を考え、運営委託先を探していたが、全候補から断られた。市が提示した構想は東生駒2丁目で100床の小規模病院。この規模だと年間1億5千万円の赤字と市は試算。赤字が出るとわかっている小規模病院をいったい誰が引き受けるのか。市長は病院をつくる気があるのかと言いたくなる。

管理運営の委託交渉先医療機関から断りの返事！

7月5日、生駒市の新病院建設構想が暗礁に乗り上げたことが明らかになりました。市は公設民営での病院を考え、運営委託をする医療機関(指定管理者)と交渉してきましたが、その全てから“その意向はない”と回答があったと発表したのです。

まり子議員は6月定例議会の一般質問で、8月の県医療審議会に病院計画を出さないと、病院ができない可能性があることを強調し、議会で十分審議できるよう可能な限り速やかに病院計画を呈示するよう要請しました。市長はすぐには公表できな

いが、交渉は煮詰まりつつあることを示唆し、市民の期待はふくらみましました。そこへ、今回の発表。市民は愕然とし、なぜだ、どうなってるんだ、と驚きと怒りの声がうずまいています。本号外では、11日に開かれた新病院設置等特別委員会での市長の答弁から明らかになったことをお知らせします

計画変更で黒字の新病院は赤字に！

7月5日、市が医療機関に新病院の構想を示した仕様書も明らかになり

ました。それによると、本年2月、国保連合会が生駒市と生駒総合病院跡地の売却交渉を打ち切ったため、市は予定地を東生駒2丁目の野村証券社員寮跡地に変更しました。面積と容積率から大きな建物は無理なので、ベッド数を196床から100床に縮小、診療科も当初の内科、外科、小児科、整形外科の4科から整形外科を除いた3科にしました。そして、建物、医療機器の整備費用は生駒市が、運営費は指定管理者が負担。市が依頼する政策医療分(小児科、救急など)の補助は別途協議。赤

字全体の半分は生駒市が負担(ただし上限あり)し、黒字は両者で折半する、という内容でした。

これで受け入れ先はあるの？

生駒市が先に示した経営予測では、196床のベッドの病院では6年後に黒字転換の予定が、100床では年間1億5千万円の赤字に転落。最初から赤字になることがわかっている計画を受ける医療機関があるでしょうか。断ってくださいと言わんばかりの計画です。市民にとっても毎年赤字の半分、すなわち7500万円を負担し続ける計画が受け入れられるでしょうか。疑問は増す

ばかりです。

病院が安定した経営をするためにはそれなりの規模が必要です。小児科、救急などの経営上黒字を望めない科の収支を、黒字を出せる他科の収益でカバーするのです。実際、生駒市が出した196床での経営予測では黒字のはずでした。市民の負担を減らすためにも、黒字経営可能な案を出すべきです。

新病院整備専門委員会の間答申はどうなったのか？

昨年11月に設置された新病院整備専門委員会では、学識経験者、県医師会・地元医師会代表、医師、病院医事課長、中央社会保健医療協議会委員らが土曜・祝祭日を返上して議論し、1月13日、不足する医療の充足を中心とした新病院構想を中間答申として市長に提出しました。まり子議員も委員です。

中間答申では、196床のベッドを基本に、必須機能として前述の4科以外に地域救急医療を支援する教育研修、疾病予防の強化、病院運営に関する情報の開示なども盛り込まれ、要望項目として心筋梗塞、糖尿病への対応、心療内科、神経内科の充実などもありました。病院経営の難しい時代でも、こんなにいい病院ができましたよ、と生駒から全国に発信できるような魅力ある病院をつくらう、

と意見が交わされたのでした。

しかし、それ以降、専門委員会に一度も諮ることなく、市は用地を変え、ベッド数を半減し、診療科も減らして、交渉を進めていたのです。

医療コンサルタントとの契約や委員の報酬に市民の税金が使われ、委員も多忙な年末年始に計5回17時間余を費やして討議を重ねたこの委員会は何だったのか。市は中間答申に即した交渉を行うべきで、変更が必要ならば委員会で審議すべきであったと考えます。

11日の特別委員会で、市長は今後も新病院建設を模索すると答弁しました。しかし、交渉先が指定管理者を断った原因を取り除き、積極的に対応していこうとする態度は示しませんでした。予算320億の生駒市に見合った病院の建設なら考えるが、身の丈に合わない建設は行わないという意向でした。当然のことです。問題は100床でほとんど政策医療のみの病院なら赤字は必至で、その半分は市民がかぶるということです。これは医療機関も、市民も受け入れられないでしょう。これでは、市長が本

当に **市長は本当に病院をつくる気があるのか？** 市議会

病院をつくる気があるのかと疑われてもしかたがありません。

どのような病院構想であれば経営的にも安定し、市民に喜ばれる病院になるか検討し直すべきです。無

駄のないスリムな市政を実現しつつ、病気になるための予防医療を提供し、病気になるっても日常生活を営みながら適切な治療を受けられる病院、子供もお年寄りも安心してかかれる身近な病院をつくり、それを基盤に安心して暮らせる夢のある街づくりに、若い英知を絞って取り組んでいただきたいと切に願います。

東生駒2丁目の土地で大丈夫か

生駒市が予定地にした東生駒2丁目の土地の一部には活断層が走っています。また、この土地は土地開発公社が東コミュニティセンター用に9億円で取得したのですが、その取得に問題があるとの指摘から、市が公社から買い取ることを差し止める住民訴訟が起こされています。

動けない患者が多数いる病院なのに地震時の安全は保証されるのか？ 訴訟が計画に影響しないのか？ 何より最大限病床確保しても150床が限度という土地の狭さ。用地はこ

このように状態では問題は解決しません。2月の医療審議会まで後6ヶ月。時間は残りわずかですが、少ない財政負担で市民の期待に沿った病院はできないのか、市議会と市が協力し合って検討しましょうと、まり子議員は11日の特別委員会で提案しました。今こそ、市と市議会が一丸となって、市民のため

のあらゆる方策を検討すべきです。そして、そのためにはそれを後押しする市民の大きな声が必要です。先の選挙でまり子議員を誕生させたような大きな力が必要です。

残された時間は確かに少なくなりました。しかし、まだ病院建設が不可能になったわけではありません。みなさん、病院問題に注目してください。そして、今一度叫びましょう、一日も早く市民の病院が必要だと。

今まで市議会には、病院建設にあ

再度、声高に叫ぼう！

一日も早く市民の病院を！

からさまに反対する議員

はいなかつたものの、市と一緒に市民の医療を

考えようという積極的な姿勢は見られませんでした。その理由は議会の一部にある山下市政への非協力ですが、市側にも交渉中であることを理由に市議会に病院構想を呈示さ

なかった問題がありました。

このような状態では問題は解決しません。2月の医療審議会まで後6ヶ月。時間は残りわずかですが、少ない財政負担で市民の期待に沿った病院はできないのか、市議会と市が協力し合って検討しましょうと、まり子議員は11日の特別委員会で提案しました。今こそ、市と市議会が一丸となって、市民のため

丸となって、市民のため

の病院建設

のあらゆる方策を検討すべきです。

そして、そのためにはそれを後押しする市民の大きな声が必要です。先の選挙でまり子議員を誕生させたような大きな力が必要です。

残された時間は確かに少なくなりました。しかし、まだ病院建設が不可能になったわけではありません。みなさん、病院問題に注目してください。そして、今一度叫びましょう、一日も早く市民の病院が必要だと。